



System Management Services (SMS) 1.3 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-1348-10
2003 年 1 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire、OpenBoot PROM、Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	System Management Services (SMS) 1.3 Release Notes Part No: 816-5321-10 Revision A
-----	--



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. System Management Services (SMS) 1.3 ご使用にあたって 1

SMS 1.3 で既知の制限事項 1

一般的な問題 2

Capacity on Demand (COD) 2

COD 関連の SMS コマンド 3

COD 1.1 からのアップグレード 3

システムコントローラ (SC) 外部ネットワークの構成 3

システムの BREAK 処理 4

IPSec の構成 5

smsconnectsc コマンド 5

再インストールとアップグレード 5

SMS のマニュアルについて 6

パーツ番号 6

2. SMS 1.3 のバグ 7

SMS 1.3 ソフトウェアのバグと RFE 7

ドメインが POST を実行しているときに、dsmd が誤ったタイムアウトメッセージをログに記録する (BugId 4709190) 8

scman がアクティブなパスの変更を検出できない (BugId 4737187) 8

IOSRAM コンソールが低速なため、コンソールデータが消失してしまう (BugId 4750509) 8

`smsconnectsc` をスベア SC で実行すると、制御操作が混乱する (BugId 4776482) 9

断続的な受信メールボックスの障害により DR 操作が失敗する (BugId 4778572) 9

何も装着されていない IO スロットが、`hpost` 実行後に `hsPCI` として表示される (BugId 4783670) 9

スベア SC が OBP プロンプト状態にある場合、SC クロックはフェーズロックされない (BugId 4783775) 10

Hpc3130 カセットの状態に対して、断続的な I²C タイムアウト (1124) が発生する (BugId 4785961) 10

最初のドメインの POST 中に `HASRAM` テストと通信が失敗する (BugId 4789435) 10

SC が削除されると、`esmd` は `SCPER` からデータへのアクセスを試行し続ける (BugId 4789560) 11

SC が削除されると、`frad` は `SCPER` からデータへのアクセスを試行し続ける (BugId 4789565) 11

数字で始まるプラットフォーム名の場合、`mand` の起動に失敗する (BugId 4790002) 11

`/etc/inet/inetd.conf` の `sun-dr` エントリを削除すると、ネットワークまたはドメインがハングアップする (BugId 4791943) 12

フェイルオーバー後に、フェイルオーバーメカニズムが自動的に使用不可にならないことがある (BugId 4792450) 12

`showenvironment` コマンドがスベア SC で実行しようとする (BugId 4793237) 12

`setbus` 接続準備メッセージが長すぎるとき、メッセージの途中から表示されなくなる (BugId 4793542) 13

`hwad` プロキシ呼び出しエラーメッセージがプラットフォームログに記録される (BugId 4793662) 13

SC0 で Secure Shell を起動できない (BugID 4796675) 14

`setkeyswitch standby/off` を実行すると、拡張ボードのグローバル `dstops` が発生し、分割構成を使用している場合に POST が失敗する (BugId 4799169) 14

テストボードの失敗 -- dxs が、入出力ボードテストメモリーに対して間違っ
た EXB を tmd キューに入れることがある (BugId 4801180) 15

管理ネットワーク (MAN) のバグ 15

ネットインストール時の MAN ドライバのエラーメッセージ (BugId
4368815) 15

MAN ドライバの構成関数は、sysidtool フレームワークに存在する必
要がある (BugId 4469050) 15

他のドメインの起動ディスクで起動すると、ドメイン MAN の構成で問題
が発生する (BugId 4482112) 16

smsconfig -m によるインストール済みドメインの MAN I1 ネットワー
ク IP アドレス設定に、ドメインでの変更が反映されない (BugId
4484851) 16

その他のバグ 16

ohci ドライバが SOF 割り込みを受信しない (BugId 4485012) 16

最新の eri パッチをインストールした I2 のアクティブなパス構成を変更で
きない (BugId 4742858) 17

キャッシュ不可の要求への対応づけを解除された応答が、AXQ ロックモ
ジュールの状態を破壊する (BugId 4761277) 17

33 MHz 対応カードを 66 MHz の空のスロットに挿入すると、ホットプラグが
機能しない (BugId 4785070) 18

SF15K プラットフォーム固有の Begin/Finish スクリプトが、HPCI+ のみの
ドメインでハングアップする (BugId 4797577) 18

3. 動的再構成 (DR) ご使用にあたって 19

既知の制限事項 19

SMS 側での制限事項 20

ドメイン側での制限事項 20

一般的な情報 20

DR に関連するマニュアルについて 20

パーツ番号 21

既知のバグ 21

SMS 側でのバグ 21

dca が障害の発生したネットワーク接続を検出しない (BugId 4628314) 21

ドメイン側でのバグ 22

Solaris 8 `xntpd` が RT クラスで実行されるため、DR 操作のコピーや名前の変更ができない (BugId 4396562) 22

`memscrubber` プロセスが、大容量のメモリー構成のドメインでスリープしない (BugId 4647808) 22

特定のギガビット Ethernet オプションカードが、DR により IO ボードを初めて追加した後で自動構成されない (BugId 4698684) 23

特定の I/O オプションカードを構成すると、`pci:map-out failed` メッセージが表示されることがある (BugId 4722493) 23

`deleteboard` を実行するとリークエラーが表示される (BugId 4730142) 24

DR 中に `scsi_transport` で `glm` によるハングアップが発生する (BugId 4737786) 24

ハードウェアのバグ 25

GigaSwift Ethernet MMF のリンクが、DR 接続後の CISCO 4003 スイッチで停止する (BugId 4709629) 25

はじめに

このマニュアルでは、System Management Services (SMS) 1.3 ソフトウェアに固有の情報を説明します。

お読みになる前に

このマニュアルは、UNIX® システム、特に Solaris™ オペレーティング環境のシステムでの作業経験を持つ Sun Fire システム管理者を対象にしています。このような経験がない場合は、まずこのシステムに付属の Solaris ユーザーおよびシステム管理者向けマニュアルを読み、UNIX システム管理のトレーニングの受講を検討してください。

次世代の Sun Fire サーバーファミリのすべてのメンバーは、ゆるやかに結合されたクラスタとして構成できます。ただしこのマニュアルでは、Sun Fire のクラスタ構成のシステム管理については解説しません。

マニュアルの構成

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

第 1 章では、SMS 1.3 に固有の情報を示します。

第 2 章では、SMS 1.3 のバグと RFE、およびその他のバグについて説明します。

第 3 章では、SMS 1.3 での動的再構成 (DR) に関する情報とバグについて説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

これらの詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- 『Sun 周辺機器 使用の手引き』
- Solaris ソフトウェア環境に関するオンラインマニュアル
- ご使用のシステムに付属のその他のソフトウェアマニュアル

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
<i>AaBbCc123</i> またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep <code>``^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
管理者マニュアル	System Management Services (SMS) 1.3 管理者マニュアル	817-1340-10
リファレンス (man1M)	System Management Services (SMS) 1.3 リファレンスマニュアル	817-1341-10
概要	Sun Fire 15K/12K ソフトウェアの概要	817-1353-10
オプション	System Management Services (SMS) 1.3 Dynamic Reconfiguration ユーザーマ ニュアル	817-1382-10
	Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	817-1383-10
	Sun Fire 15K/12K システムサイト計画 の手引き	816-2184-11
	OpenBoot™ 4.x Command Reference Manual	816-1177-10

Sun のオンラインマニュアル

サンの各種システムマニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs>

Solaris およびその他のマニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://docs.sun.com>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-1348-10) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

System Management Services (SMS) 1.3 ご使用にあたって

この章では、Sun Fire 15K/12K システムサーバー上の System Management Services (SMS) 1.3 に固有の情報として、以下の項目について説明します。

- SMS 1.3 で既知の制限事項
 - 一般的な問題
 - SMS のマニュアルについて
-

SMS 1.3 で既知の制限事項

この節では、Sun Fire 15K/12K システムの SMS に関連する既知の制限事項を説明します。

- この SMS 1.3 のリリース時点では、`setbus` を使用する必要がある場合、`setbus -c csb` が唯一の指定形式です。`-b` オプションや `location` オペランドを使用するとシステムが不安定になる可能性があるため、**使用しないでください**。
- プロダクションドメインと、デバイスドライバなどの新規またはテストされていない特権モードソフトウェアが含まれているドメインでは、両方のドメインで `dstop` が発生する可能性があるため、これらドメイン間で拡張ボードを共有しないでください。[BugId 4761277](#) を参照してください。
- `setkeyswitch standby` または `setkeyswitch off` コマンドを複数同時に実行すると、拡張ボードを共有しているドメインに `dstops` が発生することがあります。[BugId 4799169](#) を参照してください。
- `hsPCI` ボードには、66 Mhz スロットが 1 つあります。ドメインの再起動を行わない場合、このスロットに 33Mhz のカードを装着しないでください。[BugId 4785070](#) を参照してください。

- Sun Fire 15K/12K システムで SMS 1.3 から SMS 1.2 に戻す場合、`smversion` を実行しても、ドメイン構成の設定値は自動的に復元されません。手動でドメイン構成を復元する必要があります。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』の 83 ページの「未構成のドメイン」を参照してください。

また、たとえば COD など、SMS 1.3 には存在しても SMS 1.2 にはない機能は、SMS 1.2 に戻すとサポートされなくなります。

- hsPCI+ 機能を使用するには hsPCI + ボードが必要です。
- Sun Fire Link ファブリックマネージャーサーバーをはじめとする Sun Fire Link クラスタリング機能を使用するには、wPCI ボードが必要です。

一般的な問題

この節では、Sun Fire 15K/12K システムの SMS に関連する一般的な問題について説明します。

Capacity on Demand (COD)

Capacity on Demand (COD) オプションは、必要になった時点で代金を支払って使用できる、予備の処理リソースを提供します。COD オプションを使用すると、ライセンスのない CPU/メモリーボードがシステムに取り付けられます。これらのボードは COD CPU/メモリーボードとして区別され、4 つの CPU が搭載されています。しかし、この COD CPU/メモリーボードに対する COD RTU (right-to-use) ライセンスも購入しない限り、このボードに搭載されている CPU を使用する権利はありません。COD RTU ライセンスを購入すると、ライセンスキーを受け取り、ライセンスに応じた個数の COD プロセッサが使用できるようになります。

Sun Fire 15K/12K システムでは、システムの最大許容量まで、アクティブな CPU/メモリーボードと COD CPU/メモリーボードを任意に組み合わせて使用することができます。システムの各ドメインには、アクティブな CPU が 1 つ以上必要です。

COD を利用するには、『System Management Services (SMS) 1.3 管理者マニュアル』の「Capacity on Demand」の章を参照してください。COD CPU/メモリーボードと、そのボードに対応する COD RTU ライセンス数を購入される際には、購入先にお問合せください。COD CPU/メモリーボードを取り付けた後、SMS ソフトウェアを使用して COD RTU ライセンスを割り当て、COD CPU を使用可能にし、使用中の COD CPU を監視する方法の詳細については、上記マニュアルの「Capacity on Demand」の章と、『System Management Services (SMS) 1.3 リファレンスマニュアル』を参照してください。

COD 関連の SMS コマンド

以下の COD 関連のコマンドが、SMS 1.3 の新規コマンドです。

- `addcodlicense` - Capacity on Demand (COD) RTU (right-to-use) ライセンスキーを COD ライセンスデータベースに追加します。
- `deletecodlicense` - COD RTU ライセンスキーを COD ライセンスデータベースから削除します。
- `showcodlicense` - COD ライセンスデータベースに格納されている現在の COD RTU ライセンスを表示します。
- `showcodusage` - COD 資源の現在の使用統計情報を表示します。

COD 1.1 からのアップグレード

現在 COD 1.1 を使用中であり、SMS 1.3 とともに新規 COD オプションの使用を希望する場合は、購入先に連絡してアップグレードの手続きを行ってください。購入先の販売担当者がサービス代理店と協力して、SMS 1.3 の COD オプションで使用できるように、お使いの COD 1.1 CPU/メモリーボードをアップグレードいたします。

新規 COD オプションの使用を希望する場合は、SMS ソフトウェアを SMS 1.2 から SMS 1.3 にアップグレードする必要があります。SMS ソフトウェアのアップグレードについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』を参照してください。

システムコントローラ (SC) 外部ネットワークの構成

各システムコントローラ (SC) は、その接続先である TCP/IP ネットワークに合わせて構成する必要があります。TCP/IP ネットワークの計画および構成の詳細については、Solaris 9 System Administrator Collection の『Solaris のシステム管理 (資源管理とネットワークサービス)』を参照してください。SMS では、IPv4 と IPv6 両方の構成をサポートしています。

このリリースでは、SC は各 SC の背面板にある RJ45 ジャックでのネットワーク接続をサポートしています。この接続は、各 SC の Solaris ソフトウェアの `hme0` および `eri1` と対応します。使用する TCP/IP ネットワークに適した情報を使って、各 SC の `hme0` または `eri1` を構成する必要があります。この構成により、各 SC は個別の IP ホスト名およびアドレスを持ち、外部のネットワークアプリケーションに認識されるようになります。



注意 – Sun Fire 15K/12K システムのマニュアルに記載されている `smsconfig` の使用例の IP アドレスは、あくまで例に過ぎません。使用するネットワークで有効な IP アドレスについては、必ず『Sun Fire 15K/12K システムサイト計画の手引き』を参照してください。特定の状況のもとでは、無効なネットワーク IP アドレスを使用すると、システムが起動できなくなる場合があります。

各 SC は、相互に排他的な 2 つのモードのうちの 1 つ、すなわちメインモードまたはスベアモードで動作します。メインモードの SC が、コンピュータを制御する SC です。スベアモードの SC は、メイン SC に障害が発生した際に自動的に交代するスベアとして動作します。システムコントローラのうち、どれがメイン SC でどれがスベア SC であるかを確認しておくことは重要です。SC の役割を判別するには、SC にログインしてから以下のコマンドを使用します。

```
sc0:sms-user:> showfailover -r
MAIN
```

外部コミュニティネットワークを構成していない場合は、Sun Management Center、telnet などのアプリケーションには、メインシステムコントローラの適切な IP hostname を指定する必要があります。SC のフェイルオーバーの場合、これらのアプリケーションの再起動では新しいメイン SC の IP アドレスを指定する必要があります。

注 – `smsconfig -m` を使用して 1 つの SC のネットワーク構成を変更した場合は、他の SC にも同じ変更を行う必要があります。ネットワーク構成が、他方の SC に自動的に反映されることはありません。

システムの BREAK 処理

SMS 1.3 では、フェイルオーバーを容易にするために、システムを停止する BREAK 処理が STOP-A から代替の [RETURN] [TILDE] [CONTROL B] に変更されています。

注 – 各文字間は 0.5 秒以上の間隔を開け、文字列全体は 5 秒以内に入力する必要があります。

無作為または不必要なブレークによって意図しない停止を引き起こすことなく、必要な場合にはハングアップしているシステムを強制的に停止できるように、Solaris 8 でこの新機能が導入されました。この機能は、コンソールとして動作しているシリアルデバイスでのみ有効で、キーボードが装備されているシステムでは必要ありません。

SMS 1.3 では、`/etc/default/kbd` ファイルの以下の行は、デフォルトでコメント解除されています。

```
KEYBOARD_ABORT=alternate
```

注 – システムに対して、STOP-A は使用しないでください。システムでフェイルオーバー機能を利用できなくなります。

IPSec の構成

Sun Fire 15K/12K システムで使用するディスクは、Sun Fire 15K または Sun Fire 12K コンピュータを使用してインストールする必要があります。`/etc/inet/inetd.conf` に記述されているポリシーは、手動で `/etc/inet/ipsecinit.conf` にも追加する必要があります。

`/etc/inet/inetd.conf` から削除するポリシーは、`/etc/inet/ipsecinit.conf` からも手動で削除する必要があります。

Bug Id 4449848 を参照してください。

smsconnectsc コマンド

`smsconnectsc` は、遠隔 SC がハングアップして、`login` では正常にアクセスできない場合に使用するためのコマンドです。`smsconnectsc` を使用してローカル SC から遠隔コンソールセッションを作成すると、ローカル SC は監視能力と監視機能を失う場合があります。システムの回復という明確な目的でない限り、`smsconnectsc` を使用しないでください。

再インストールとアップグレード

以前のバージョンの SMS では、Java™ WebStart GUI と `pkgadd` コマンドを使用して、SMS パッケージを Sun Fire 15K/12K システムにインストールする方法がマニュアルに記載されていました。SMS 1.3 では、`smsinstall` スクリプトと `smsupgrade` スクリプトを採用しており、WebStart と `pkgadd` コマンドを推奨したりマニュアルに記載したりする必要がない程度に、インストールとアップグレード処理が簡略化および合理化されています。SMS の構成は複雑であるため、SMS 1.3 をインストールまたはアップグレードするときには、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』に記載されている方法以外は使用しないでください。記載されている以外の方法を使用すると、間違った構成となり、機能が低下する可能性があります。

SMS のマニュアルについて

この節では、Sun Fire 15K/12K システムの SMS に関連するマニュアルについて説明します。

パーツ番号

このリリースのソフトウェアマニュアルは、以下の Web サイトで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_15K

マニュアルのファイル名は、パーツ番号と同じです。以下にマニュアル名との対応を示します。

817-1340-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.3 管理者マニュアル
(816-7243-10 と差し替え)

817-1341-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.3 リファレンスマニュアル
(816-7244-10 と差し替え)

817-1343-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル
(816-7239-10 と差し替え)

817-1348-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.3 ご使用にあたって
(816-7239-10 と差し替え)

817-1353-10.pdf - Sun Fire 15K/12K ソフトウェアの概要 (816-7234-10 と差し替え)

第2章

SMS 1.3 のバグ

この章では、SMS 1.3 で既知のバグとユーザーの要望により SMS 1.3 で実現した拡張機能 (RFE : request for enhancement) に加え、SMS 1.3 に影響することが確認されているその他のバグについて説明します。

この章では、以下の項目を説明します。

- SMS 1.3 ソフトウェアのバグと RFE
- その他のバグ

SMS 1.3 ソフトウェアのバグと RFE

この節では、SMS 1.3 に関して判明している重要なバグや RFE の概要と Sun BugId 番号を説明します。このリストには、すべてのバグと RFE が含まれているわけではありません。

ドメインが POST を実行しているときに、dsmd が誤ったタイムアウトメッセージをログに記録する (BugId 4709190)

その後、dstop が発生するパニックや、緊急時の esmd シャットダウンから回復したときに、dsmd が次のようなメッセージをログに記録する場合があります。

```
Aug 29 18:29:40 2001 xc46-sc1 dsmd[16345]-A(): [2502
202120580239855 ERR STCDirector.cc 494] OBP initialization timed
out in state OBP/PRERUN/NULL
Aug 29 18:32:35 2001 xc46-sc1 dsmd[16345]-A(): [0 202295223111371
NOTICE STCDirector.cc 87] Domain state changed to 20290/17/0 right
after timeout.
```

しかし、実際にはタイムアウトは発生していません。

回避策: メッセージを無視してください。

scman がアクティブなパスの変更を検出できない (BugId 4737187)

メイン SC の開始後、Solaris ソフトウェアのタイムアウトによりアクティブなパスが変更されることがあります。アクティブなパスを G-IOSRAM に関連付けられているインタフェース以外に設定すると、ドメインは 'boot man-net' に失敗します。

回避策: scman0 のアクティブなパスを G-IOSRAM に関連付けられているインタフェースに設定し、boot man-net -s を再実行します。

IOSRAM コンソールが低速なため、コンソールデータが消失してしまう (BugId 4750509)

ドメインコンソールプログラムを使用して IOSRAM モードでドメインと通信するとき、つまり、Solaris が起動する前に、タイムアウトが発生することがあります。その結果、短い出力部分が、console コマンド出力とドメインコンソールログから欠落する可能性があります。

回避策: Solaris の起動直後にコンソールを「ネットワーク」モードに切り替えて、この問題が発生しないようにします。

smsconnectsc をスペア SC で実行すると、制御操作が混乱する (BugId 4776482)

smsconnectsc は、ハングアップした SC の回復に使用するコマンドで、日常の操作に使用するものではありません。外部コンソール接続が SC に接続されているときにこのコマンドを使用すると、内部ネットワークが混乱する場合があります。smsconnectsc コマンドを実行すると、I²C バスの制御が占有されます。このコマンドをスペア SC で実行した場合、I²C の制御がメイン SC から引き継がれます。制御がメイン SC に戻ることはありません。

回避策: スペア SC で smsconnectsc コマンドを実行しないでください。

断続的な受信メールボックスの障害により DR 操作が失敗する (BugId 4778572)

このエラーは、DR デーモンが起動する前に OS を再起動した直後に、小さなウィンドウで発生することがあります。DR コマンドが失敗し、エラーメッセージ 1141 がプラットフォームログに記録されます。

回避策: スクリプトを再起動するか、DR コマンドを再実行します。自動スクリプトの場合は、DR コマンドを実行する前に、コンソールログインプロンプトを探してください。

何も装着されていない IO スロットが、hpost 実行後に hsPCI として表示される (BugId 4783670)

hpost のレポートにわずかな間違いがあります。このバグを確認するには、ボードを取り外し、そのボードをドメインのリストに表示させて、ドメインを起動し、hpost レポートを調べる必要があります。機能しているボードが必要な枚数ある場合は、ドメインは正常に起動して動作します。

回避策: なし。

スペア SC が OBP プロンプト状態にある場合、SC クロックはフェーズロックされない (BugId 4783775)

アップグレード後にスペア SC が OBP プロンプト状態にある場合、SC クロックがフェーズに一致していないことを示す esmd メッセージがプラットフォームログに記録されます。

回避策: メッセージを停止するには、スペア SC を起動します。

Hpc3130 カセットの状態に対して、断続的な I²C タイムアウト (1124) が発生する (BugId 4785961)

Hpc3130 hsPCI カセットの状態を取得するときに、dxs と frad によって断続的な I²C タイムアウトが報告されます。このバグの影響は害のないもので、プラットフォーム、ドメイン、およびドメインコンソールのメッセージログにエラーメッセージを生成するだけです。

回避策: なし。

最初のドメインの POST 中に HASRAM テストと通信が失敗する (BugId 4789435)

最初のドメインで POST が実行されると、拡張ボード上のコンソールバスをリセットします。HASRAM 通信ではそのバスが機能している必要があるため、HASRAM テストが失敗します。I² ネットワークがダウンしている場合には、次にテストが繰り返されるまで、フェイルオーバーが失敗します。このバグが頻繁に発生する可能性は少なく、いくつかのエラーメッセージが表示されたり、約 1 分間フェイルオーバーが失敗するだけです。

回避策: なし。

SC が削除されると、esmd は SCPER からデータへのアクセスを試行し続ける (BugId 4789560)

強制フェイルオーバー後に新しいスペア SC が削除されると、読み取り時間切れエラーメッセージがメッセージログに送信されます。このエラーメッセージは、メッセージ限度に達し、その限度を宣言する新しいメッセージが送信され、その条件が監視されなくなるまで送信され続けます。

回避策: メッセージを無視してください。

SC が削除されると、frad は SCPER からデータへのアクセスを試行し続ける (BugId 4789565)

強制フェイルオーバー後に新しいスペア SC が削除されると、読み取り時間切れエラーメッセージがメッセージログに送信されます。このエラーメッセージは、メッセージ限度に達し、その限度を宣言する新しいメッセージが送信され、その条件が監視されなくなるまで送信され続けます。

回避策: メッセージを無視してください。

数字で始まるプラットフォーム名の場合、mand の起動に失敗する (BugId 4790002)

smsconfig -m コマンドを使用して設定したプラットフォーム名の最初の文字は、英字でなければなりません。最初の文字に数字または特殊文字を使用すると、mand は起動せず、エラーがプラットフォームのメッセージログに記録されます。

回避策: プラットフォーム名の最初の文字を英字にします。

/etc/inet/inetd.conf の sun-dr エントリを削除すると、ネットワークまたはドメインがハンガアップする (BugId 4791943)

dcsl は、sun-dr というラベルが付いたネットワークサービスで待機します。このネットワークサービスの基となるプロトコルは TCP で、TCP トランスポートを使用して inetd サーバーとして起動されます。/etc/inet/inetd.conf ファイルの DCS 用のエントリは次のようになります。

```
sun-dr stream tcp wait root /usr/lib/dcs dcs
sun-dr stream tcp6 wait root /usr/lib/dcs dcs
```

これらのエントリにより、遠隔 DR 操作が使用可能になります。これらのエントリを削除してもサーバーに悪影響を与えることはありませんが、遠隔ホストから開始される DR 操作はすべて失敗します。

回避策: これらのエントリを削除する場合には、/etc/inet/ipsecinit.conf ファイルで対応する以下のエントリも同時に削除する必要があります。

```
{ dport sun-dr ulp tcp } permit { auth_algs md5 }
{ sport sun-dr ulp tcp } apply { auth_algs md5 sa unique }
```

フェイルオーバー後に、フェイルオーバーメカニズムが自動的に使用不可にならないことがある (BugId 4792450)

フェイルオーバーまたはテイクオーバーの後、手動で使用可能にするまで、フェイルオーバーは使用不可になる必要があります。15 回のうちの約 1 回 (つまり、約 8%) のフェイルオーバーでは、フェイルオーバー後も使用可能な状態のままになります。

回避策: 回避策は必要ありません。しかし、新しいメイン SC で setfailover off を実行すると、フェイルオーバーを使用不可にすることができます。

showenvironment コマンドがスペア SC で実行しようとする (BugId 4793237)

showenvironment は、メイン SC でだけ実行する必要があります。正しいエラーメッセージを表示して終了する前に、このコマンドがスペア SC で実行を試みます。

回避策: なし。

setbus 接続準備メッセージが長すぎる時、 メッセージの途中から表示されなくなる (BugId 4793542)

電源が入っていてもアクティブでないボードがドメインにある場合、失われた接続準備情報に関する警告が setbus コマンドの出力に含まれます。表示内容が長すぎる場合、このメッセージは途中までしか表示されません。

回避策: なし。表示結果は次の例のようになるはずです。

```
sc0:sms-user:> setbus -c CS0
The following boards are powered on but are not active in a domain:
SB13
IO9 assigned to domain J
IO16 assigned to domain Q
SB17
These boards will be reset, and any attach-ready state will be
lost.
Are you sure you want to continue the reconfiguration? [y|n]:y
```

hwad プロキシ呼び出しエラーメッセージがプ ラットフォームログに記録される (BugId 4793662)

ドメインを起動すると、HWAD プロキシ呼び出しに関する frad と hwad からのエラーがプラットフォームログに記録されることがあります。次に例を示します。

```
Dec 13 11:38:09 2002 dr3-sc0 hwad[399]: [1124 8306910789055 ERR
I2cComm.cc 557] I2c write time out - bus: 50, address: 54
Dec 13 11:38:09 2002 dr3-sc0 frad[431]: [9916 8306913978761 ERR
SeepromInfoPro.cc 2043] Seeprom Info HWAD proxy call failed on C5V
at IO2/C5V0, ecode: 1124 for client 1006
Dec 13 11:38:09 2002 dr3-sc0 frad[431]: [9942 8306915016941 ERR
FRUData.cc 754] Failed to read packet SD/ManR on C5V at IO2/C5V0
```

回避策: 他のエラーなしにドメインが起動する限り、これらのメッセージは無視してかまいません。

SC0 で Secure Shell を起動できない (BugID 4796675)

コマンド `smsconfig -s ssh` を初めて SC0 で実行すると失敗し、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
# /opt/SUNWSMS/bin/smsconfig -s ssh
Enabling ssh...
Password/passphrase authentication can be ignored
/usr/bin/ssh: Permission denied.
/usr/bin/ssh is not enabled.
```

この問題は SC0 に対してのみ影響を与えます。

回避策: まず、SC1 で `smsconfig -s ssh` を実行し、エラーが発生しないことを確認します。次に、スーパーユーザーとして SC0 にログインし、次のコマンドを実行します。

```
# awk '/SC1-I2/{print $3,"root"}' /etc/opt/SUNWSMS/config/MAN.cf
> /var/opt/SUNWSMS/data/.remotesc
```

setkeyswitch standby/off を実行すると、拡張ボードのグローバル dstops が発生し、分割構成を使用している場合に POST が失敗する (BugId 4799169)

`setkeyswitch standby` または `setkeyswitch off` コマンドを同時に実行すると、拡張ボードを共有しているドメインで `dstops` が発生することがあります。それに続いて POST が失敗し、影響を受けたドメインを手動で再起動しなければならない場合があります。

回避策: 分割スロット拡張ボード構成になっているドメインでは、`setkeyswitch standby` または `off` コマンドを同時に実行しないでください。

テストボードの失敗 -- dxs が、入出力ボードテストメモリーに対して間違った EXB を tmd キューに入れることがある (BugId 4801180)

分割スロット構成を作成する DR コマンドを同時に実行すると、ロックの問題が発生して失敗することがあります。

回避策: 成功するまで、DR コマンドを繰り返し実行します。

管理ネットワーク (MAN) のバグ

この節では、MAN に関して判明している重要なバグの概要と Sun BugId 番号を説明します。このリストには、すべてのバグが含まれているわけではありません。

ネットインストール時の MAN ドライバのエラーメッセージ (BugId 4368815)

SC をインストールサーバーとして使用してドメインをネット起動し、MAN を経由すると、Solaris ソフトウェアの起動時に以下のエラーが表示されます。

```
ifconfig: setifflags: SIOCSLIFFLAGS: eri1: Cannot assign requested address
```

回避策: 無視してください。

MAN ドライバの構成関数は、sysidtool フレームワークに存在する必要がある (BugId 4469050)

Solaris ソフトウェアによりあらかじめ構成されているドメインで sys-unconfig を実行すると、/etc/hostname.dman0 ファイルが失われます。これらのファイルは再構成起動時に再生成されないため、SC とドメイン間の MAN ネットワークが確立されません。

回避策: 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』の 83 ページの「未構成のドメイン」を参照してください。

他のドメインの起動ディスクで起動すると、ドメイン MAN の構成で問題が発生する (BugId 4482112)

あるドメインにインストールされた起動ディスクを使用して別のドメインを起動すると、ドメインの dman0 インタフェースが誤った IP アドレスで構成されることとなります。

回避策: 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』の 83 ページの「未構成のドメイン」を参照してください。

smsconfig -m によるインストール済みドメインの MAN I1 ネットワーク IP アドレス設定に、ドメインでの変更が反映されない (BugId 4484851)

インストール済みのドメインがあり、smsconfig -m を使用してその MAN I1 ネットワーク構成を変更したときは、インストール済みドメインの MAN ネットワーク情報を手動で構成する必要があります。

回避策: 詳細については、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』の 83 ページの「未構成のドメイン」を参照してください。

その他のバグ

この節では、Sun Fire 15K/12K システムに影響することが判明している重要なバグの概要と Sun BugId 番号を説明します。このリストには、すべてのバグが含まれているわけではありません。

ohci ドライバが SOF 割り込みを受信しない (BugId 4485012)

SC または Sun Fire 15K ドメインの起動時に、以下のようなメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: <device_tree_path> (ohci0): No SOF interrupts (refer to ohci(7D))
```

この警告は、Sun Fire 15K サーバーで使用しない Solaris のドライバが原因です。ただし、このメッセージは、割り込みがないために OpenHCI ドライバがこのインタフェースを使用不可にした結果、SC またはドメインで USB 装置が動作しないことを示します。また、このバグにより SC およびドメインの起動時間が大幅に延びます。

現在、このバグの回避策は発見されていません。しかし、SC および各ドメインで /etc/system ファイルに次の行を追加すれば、エラーメッセージを抑制して起動時間をわずかに短縮できます。

```
exclude: drv/ohci
```

最新の eri パッチをインストールした I2 のアクティブなパス構成を変更できない (BugId 4742858)

SC0 で次のコマンドを実行しても無効です。

```
sc0:# ndd -set /dev/scman man_set_active_path 'path_id'
```

ここで、

path_id は、アダプタ 0(hme0) または 1(eri1) です。

回避策: I2 ネットワークのアクティブなパスを変更するには、SC1 で ndd コマンドを実行します。

キャッシュ不可の要求への対応づけを解除された応答が、AXQ ロックモジュールの状態を破壊する (BugId 4761277)

2つのドメインで1つの拡張ボードを共有し、1つのドメインのデバイスドライバ(または OS 拡張機能)が間違っただレスをプログラム済みの入出力空間に対して実行すると、両方のドメインで dstop が発生する可能性があります。これは、デバイスドライバなど、特権モードで実行されている欠陥のある OS 拡張機能でのみ起こります。

回避策: テストされていなかったり問題がある特権モードソフトウェア(デバイスドライバなど)がドメインに含まれている場合には、このドメインとプロダクションドメインとの間で、拡張ボードを共有しないでください。

33 MHz 対応カードを 66 MHz の空のスロットに挿入すると、ホットプラグが機能しない (BugId 4785070)

33 MHz カードを 66 MHz スロットにホットプラグ接続しても、ドメインを再起動しないと動作しません。

回避策: 33 MHz スロットを使用するか、ドメインを再起動してください。

SF15K プラットフォーム固有の Begin/Finish スクリプトが、HPCI+ のみのドメインでハングアップする (BugId 4797577)

Solaris 8 Update 7 オペレーティング環境は、hsPCI+ ボードをサポートしていません。hsPCI+ ボードのみで構成されているドメインでは、Begin/Finish スクリプトの開始後、インストールがハングアップします。

回避策:

Ctrl-C を押して、Begin/Finish スクリプトに割り込みをかけます。これにより残りのインストールを継続させることができるため、インストールが正常に行われます。

注 – MAN インタフェース (dman0) が構成されていないことがあります。MAN インタフェース (dman0) を構成するには、『System Management Services (SMS) 1.3 インストールマニュアル』の「未構成のドメイン」に記載されている手順に従ってください。

第3章

動的再構成 (DR) ご使用にあたって

この章では、SMS 1.3 ソフトウェアのリリース時点での、Sun Fire 15K および Sun Fire 12K サーバーの動的再構成 (DR) 機能に関する既知の制限事項とバグについて説明します。Solaris 8 と Solaris 9 オペレーティング環境を実行するドメインに関する情報についても説明します。

注 – ここに記載されている内容は、このマニュアルの作成時点での正確な情報です。最新の更新情報については、Web ページ http://www.sun.com/servers/highend/dr_sunfire/software.html を参照してください。この Web ページには、最新の DR パッチのリストも記載されています。

この章では、以下の項目を説明します。

- 既知の制限事項
 - SMS 側での制限事項
 - ドメイン側での制限事項
- 一般的な情報
- DR に関連するマニュアルについて
- 既知のバグ
 - SMS 側でのバグ
 - ドメイン側でのバグ
- ハードウェアのバグ

既知の制限事項

この節では、Sun Fire 15K/12K システムでの DR に関連する既知の制限事項を説明します。

SMS 側での制限事項

現時点ではありません。

ドメイン側での制限事項

現時点ではありません。

一般的な情報

この節では、SMS 1.3 を実行している Sun Fire 15K/12K システムでの DR に関する一般的な情報について説明します。

- Sun Fire 15K および Sun Fire 12K サーバーでは、2 つのスロットを装備している拡張ボードを 18 個までサポートします。Slot 0 は CPU/メモリーボードを装着する上部のアセンブリで、Slot 1 は下部のアセンブリです。このマニュアルの発行時点では、Slot 1 には MaxCPU ポートと hsPCI アセンブリのどちらも装着可能です。
- 今までのリリースでは、Sun Fire 15K および Sun Fire 12K サーバーは、Slot 1 のボードでの DR 操作をサポートしていませんでした。現在、SMS 1.3 ソフトウェアを実行しているシステムで、特定のパッチを適用した Solaris 8 を実行しているドメインであれば、この制限はなくなりました。ただし、SMS 1.2 を実行しているシステムでは、Slot 1 のボードでの DR 操作はサポートされません。詳細と、適用する Solaris 8 パッチ番号については、http://www.sun.com/servers/highend/dr_sunfire を参照してください。

DR に関連するマニュアルについて

『Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration ご使用にあたって』というタイトルのマニュアルは現在ありません。このマニュアルに記載されていた内容は、『System Management Services (SMS) 1.3 ご使用にあたって』のこの章に収録されています。前述したように、Solaris の各バージョンに付属する最新版の『Solaris 9 x/xx ハードウェアマニュアル (補足)』と Web ページ http://www.sun.com/servers/highend/dr_sunfire も参照してください。

パーツ番号

DR 関連マニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_15K

マニュアルのファイル名は、パーツ番号と同じです。以下にマニュアル名との対応を示します。

817-1382-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.3 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル (816-7251-10 と差し替え)

817-1383-10.pdf - Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル (816-7250-10 と差し替え)

既知のバグ

この節では、Sun Fire 15K/12K システムでの DR に関連する既知のバグを説明します。

SMS 側でのバグ

dca が障害の発生したネットワーク接続を検出しない (BugId 4628314)

DCA が障害の発生したネットワーク接続を検出せず、このために DR コマンドがハングアップすることがあります。

回避策: addboard(1M)、moveboard(1M)、deleteboard(1M)、rcfgadm(1M)、または showdevices(1M) のうち、ハングアップしたように思われる遠隔 DR コマンドを終了します。

ドメイン側でのバグ

Solaris 8 xntpd が RT クラスで実行されるため、DR 操作のコピーや名前の変更ができない (BugId 4396562)

Solaris 8 では (このバグは Solaris 9 を実行しているドメインには影響しません)、xntpd は自身を RT (realtime) スケジューリングクラスに設定します。xntpd はほとんど CPU を使用しませんが、きわめてタイムクリティカルであり、準備が整ったただちに実行する必要があるため、この設定は便利です。しかし、xntpd などの RT プロセスが実行中のときは、DR 操作はシステムを一時停止しません。

回避策: この問題を回避するときは次の最初の回避策を選択し、修正するときは 2 番目または 3 番目の回避策 (DR 固有) を選択してください。

- 以下のコマンドを実行して、xntpd を TS (timeshare) クラスに設定します。

```
priocntl -s -c TS -i pid `pgrep xntpd`
```

- テキストエディタを使用し、/etc/system ファイルに以下の行を追加します。

```
set dr:dr_skip_user_threads = 1
```

- -f オプションを使用して、cfgadm(1M) に DR 操作を強制的に実行させます。RT スレッドチェックにより DR 操作が失敗した場合に、この回避策を選択すると対処できます。

memscrubber プロセスが、大容量のメモリー構成のドメインでスリープしない (BugId 4647808)

起動時またはそれ以降の DR 操作のいずれかにより、ドメインが大容量のメモリー (340GB 以上) で構成されると、メモリー取り消しスレッドが 12 時間ごとに 1 回、60 ~90 分間特定のシステムロックを独占します。独占中のウィンドウのいずれかで、DR 操作がドメインのメモリーの構成または構成解除を行おうとしても、システムロックが解放されるまでハングアップします。この理由により 1 つの DR 操作がハングアップしている限り、その他の DR 操作もすべてハングアップします。

回避策: この問題は、そのままでも 90 分以内に解決します。問題を回避するには、起動前に、/etc/system ファイルに以下の行を追加します。

```
set memscrub_span_pages = 0x3000
```

特定のギガビット Ethernet オプションカードが、DR により IO ボードを初めて追加した後で自動構成されない (BugId 4698684)

以下の NIC アダプタのいずれかを使用しているシステムでは、初めて DR 操作またはホットプラグ操作を実行するとき、ネットワークデバイスがデフォルトで `plumb` されません。ただし、それ以降の DR またはホットプラグ操作中では `plumb` されます。

- Sun GigaSwift Ethernet UTP、Option X1150A、Part No. 595-5812
- Gigabit Ethernet 2.0 (GBE/P)、Option X1141A、Part No. 605-1601

このバグは、Solaris 8 を実行しているドメインに影響します。

回避策: 上記のアダプタを使用している場合は、初めて DR またはホットプラグ操作を実行するときには、手動でネットワークデバイスを `plumb` します。

特定の I/O オプションカードを構成すると、`pci:map-out failed` メッセージが表示されることがある (BugId 4722493)

以下の 1 つまたは複数のアダプタを使用しているシステムで DR 操作またはホットプラグ操作を実行すると、以下に示すようなメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されても問題はなく、DR またはホットプラグ操作は正常に終了するはずですが、このバグは、Solaris 8 と Solaris 9 オペレーティング環境の両方を実行するドメインに影響します。

アダプタ:

- Dual FastEthernet + Dual SCSI PCI Adapter、Option X2222A、Part No. 595-5624
- PCI Dual Fibre Channel Network Adapter+、Option X6727A、Part No. 595-5853
- PCI Dual Ultra3 SCSI Host Adapter、Option X6758A、Part No. 595-5945

メッセージ:

```
Jul 29 15:39:43 xc15p13-b9 interpreter[435]: pci:map-out: dafc000
not mcookie!
Jul 29 15:39:43 xc15p13-b9 interpreter[435]:
/usr/lib/efcode/sparcv9/interpreter: FC_RUN_PRIV: Priv violation:
map-out ( 4000 3000dafc000 )
Jul 29 15:39:43 xc15p13-b9 interpreter[435]: pci:map-out: failed
```

回避策: メッセージを無視してください。

deleteboard を実行するとリークエラーが表示される (BugId 4730142)

Freshchoice カード (SunSwift PCI、Option 1032 と呼ばれる) を使用するよう構成されているシステムで DR コマンドを実行すると、下記のようなメッセージが表示されることがあります。

```
Aug 12 12:27:41 machine genunix: WARNING:
vmem_destroy('pcisch2_dvma'): leaked
```

このメッセージが表示されても問題はなく、DR 操作中に DVMA 空間は正常にリフレッシュされます。実際には、カーネルのメモリーリークは発生していません。このバグは、Solaris 8 と Solaris 9 オペレーティング環境の両方を実行するドメインに影響します。

回避策: 回避策は必要ありませんが、メッセージが表示されないようにするには、`/etc/system` ファイルに以下の行を追加します。

```
set pcisch:pci_preserve_iommu_tsb=0
```

DR 中に scsi_transport で glm によるハングアップが発生する (BugId 4737786)

glm ドライバがアクティブなシステムで動作している常時メモリーで、`cfgadm(1M)` 構成解除操作がハングアップすることがあります。これは、常時メモリーに関連した DR 操作に特有の問題で、`suspend/resume` を使用してシステムを休止する必要があります。問題は、glm ドライバにあります。このバグは、Solaris 8 と Solaris 9 オペレーティング環境の両方を実行するドメインに影響します。

回避策: システムの常時メモリーの構成解除を行わないようにします。

ハードウェアのバグ

GigaSwift Ethernet MMF のリンクが、DR 接続後の CISCO 4003 スイッチで停止する (BugId 4709629)

Sun GigaSwift Ethernet MMF Option X1151A (Part No. 595-5773) が特定の CISCO スイッチに接続されているシステムで DR 操作を実行しようとする、リンクに失敗します。この問題は、以下の CISCO ハードウェア/ファームウェアで確認されているバグが原因で発生します。

- CISCO WS-c4003 スイッチ (f/w: WS-C4003 Software、Version NmpSW: 4.4(1))
- CISCO WS-c4003 スイッチ (f/w: WS-C4003 Software、Version NmpSW: 7.1(2))
- CISCO WS-c5500 スイッチ (f/w: WS-C5500 Software、Version McpSW: 4.2(1) および NmpSW: 4.2(1))

この問題はCISCO 6509 スイッチでは見られません。

回避策: 別のスイッチを使用するか、パッチについて Cisco にお問い合わせください。

